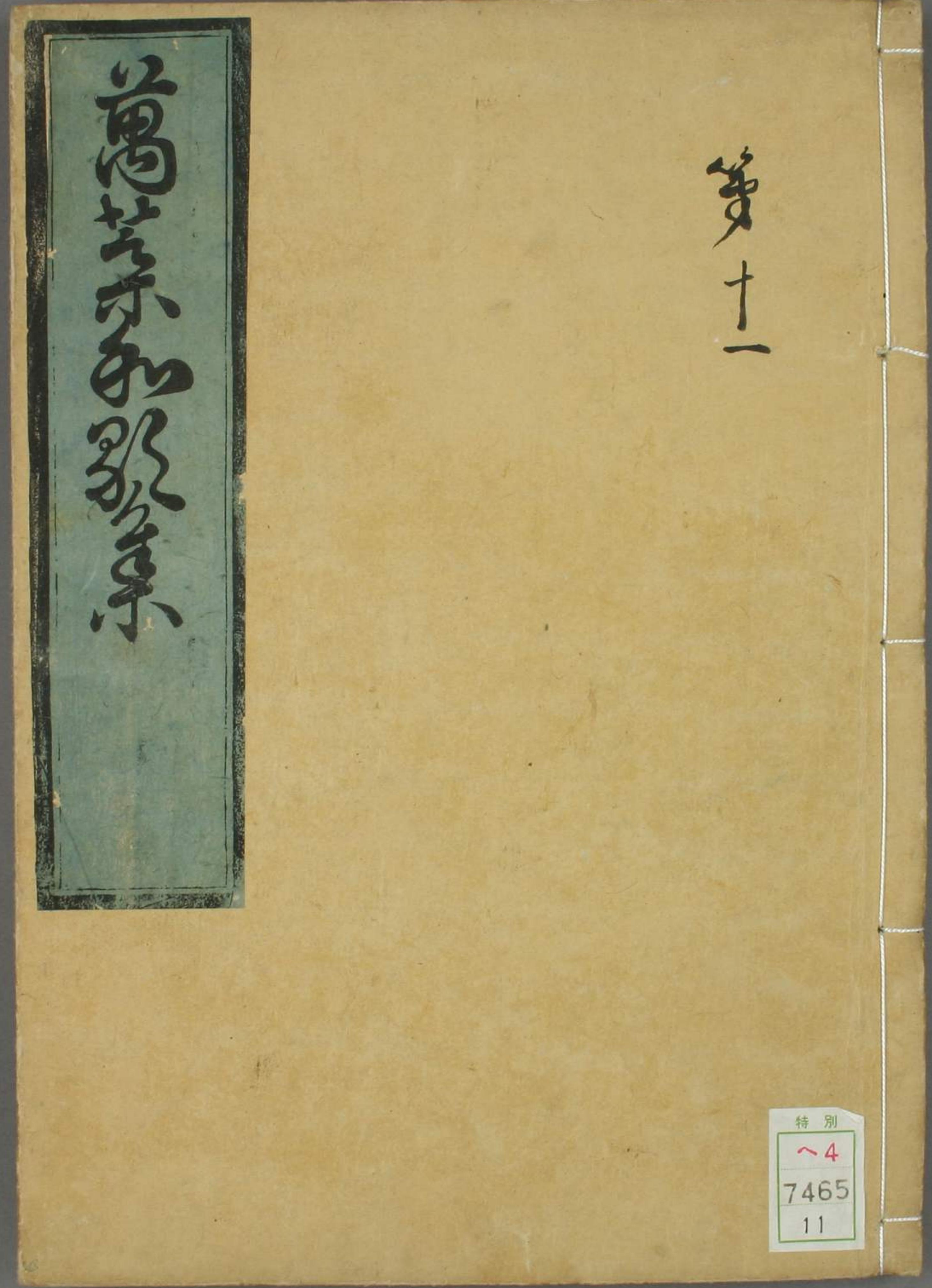


2 m

3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

JAPAN

TRADING



萬葉集卷第十一

古今相聞往來歌類之上

旋頭歌十七首

祖奇數一百四十九首如何今至向答等九首此次一書之
被寄之數入用時一百四十九首之然又與向答等十六
九首ト錄之但歌數六首云彼云此向答等九首

正述心緒歌百四十九首不足歌

寄物陳思歌三百二首

每本目錄三百二首云六但歌兩
二百九十五首也

問荅歌二十九首

每首目大十九首但奇數六首也然正述心緒奇
柳陳思等問答等九首在之然者奇也
教校合卷相傳雖然空既而別余九首

譬喻歌十三首

西所可書之有故

旋頭歌

ニヒハロノカベ クサカリニ ミ マシタハ子 クサノゴトヨリアフヲ トメハ
新室壁草薙邇御座給根草如依蓬未通女者

キミガニニく
公隨

新室踏靜子之手玉鳴裳玉如所照公乎内等

ミラセ
シヅケテル

泊世

長谷乃櫻下吾隱在妻赤根刺所光月夜邇人

ミテムカモ
ヒトリミツラムカ

見點鴨

一云人見豆良牟可

雅元

健男之念亂而隱在其妻天地通雖光所顯目

得イ

八方。一云大夫乃思多鷄備凶。

惠得吾念妹者早裳死耶雖生吾邇應依人云
ナクニヤモニトモワケトモノイハ

名國

猶錦紗片叙床落邇祁留明夜志將來得云者
トリオキテタム

取置待

朝戸出公足結乎閨露原阜起出乍吾毛裳下
ヌレヌチ

閨奈

何爲命本名求欲爲雖生吾念妹安不相
ナニセニイノチラモトナガクホリ世ムイナリトモワガオモトイモニヤスクアハナクニ

息緒吾雖念人目多社吹風有數數應相物
イキノヲニワレオモヘトニトメオホミコソフクカゼアヌシバぐアフベキモノヲ
人祖未通女兒居守山邊柄朝通公不來哀
ドンオヤノヲトメスヘテモルヤベカラアサナアサナカヨヒシキニカコヌハカナニモ
天在一棚橋何將行釋草妻所云足莊嚴
アヌアルヒトツタナハシイカニユクラムワカクサンツカトトイフアシタウツクニ

代來背

サルヌス

右十二首柿本朝臣人曆之歌集出
ナカサキノクダルミチトナカヨヒソアリツモキニガキサヘヨキニナニ
峠前多朱足道乎入莫通在毛公之來曲道
サムホニアシナラ

玉垂小簾之寸鷄吉仁入通來根足乳根之母
我問者風跡將申

内日左須宮道爾相之人妻始玉緒之念亂而
宿夜四曾多寸

真十鏡見之賀登念妹相可聞玉緒之絕有戀
之繁此者

海原乃路爾乘哉吾戀居大舟之由多爾將有
人兒由惠爾

右五首古歌集中出

正述心緒

人所寐味宿不寐早敷八四公目尚欲嘆
垂乳根乃母之手放如是許無爲便事者未爲
或本歌云公矣思爾曉來鴨
戀死戀死耶玉梓路行人事告兼
心千遍雖念人不云吾戀嫋見依鴨

是量戀物知者遠可見有物

何時不戀時雖不有夕方枉戀無乏

是耳戀度玉切不知命歲經營

吾以後所生人如我戀爲道相與勿湯目

健男現心吾無夜晝不云戀度

何爲命繼吾妹不戀前死物

吉惠哉不來座公何爲不厭吾戀乍居

見度近渡乎回今哉來座戀居

迴

早敷哉誰障鴨玉梓路見遺公不來座

公目見欲是二夜千歲如吾戀哉

打日刺官道人雖滿行吾念公正一人

世中常如雖念半手不忘猶戀在

我勢古波幸座遍來我告來人來鴨

鹿玉五年雖經吾戀跡無戀不止恠

石尚行應通達男戀云事後悔在

日位入可知今日如千歲有與鴨

判

健

位

立座態不知雖念妹不告間使不來

烏玉是夜莫明朱引朝行公待苦

戀爲死爲物有者我身千遍死反

玉響昨夕見物今朝可戀物

中中不見有從相見戀心益念

玉梓道不行爲有者惻隱此有戀不相

朝影吾身成玉垣入風所見去子故

行行不相妹故久方天露霜沾在哉

タナガスルワザモシラレズオモヘドモイモニツ、ナ子バテ「ヅカヒモコズ」
ヌバタノコノヨ「ナアリアカラヒクアサユクキニシテハクルシモ
コヒシテシニスルモノニアラセバワガミハチタビシニカヘラニ

タマユラニキノフノユフヘミシモノヲケフノアシタハコフヘキモノカ
タマボコノニキラユカズシヨリモアヒミテハコヒシキコロベシテオモホユ

タカくニヨサリシヨリモアヒミテハコヒシキコロベシテオモホユ

タマボコノニキラユカズシアラセバシノビニカルコヒニアハニヤ

アサカニワガミハナリヌタケガキノスキニミエテイニシコユヘニ

アサカニワガミハナリヌタケガキノスキニミエテイニシコユヘニ

コヒニアハニヤ

コヒニアハニヤ

コヒニアハニヤ

モ古イ

玉坂吾見人何有依以亦一目見

暫不見戀吾妹日日來事繁

年切及世定恃公依事繁

朱引秦不經雖寐心異我不念

伊田何極太堪利心及失念戀故

戀死戀死哉我妹吾家門過行

妹當遠見者恠吾戀相依無

玉父世清河原身祓爲齋命妹爲

思依見依物有一日間忘念。

オモフヨリミルヨリモノハアリモノヲヒトニヘタツルワスルトオモフナ

垣廬鳴人雖云豹錦紉解開公無。

カキホナステトイヘドモコニシキヒモトキアクルキニモナキカモ

豹錦紉解開夕戸不知有命戀有。

モサカフ子カツキイルヤウラサシテハハトフトモソノナハイハジ

百積船潛納八占刺母雖問其名不謂

テユ子カキハナヒヒモトキニツラムヤイツシカミントオモフワガキニ

眉根削鼻鳴紉解待哉何時見念吾君。

キミコフトウラフレシバフヤシシモワガアヒモツハスビテタニ

君戀浦經居悔我裏紉結手徒。

トロターノトニハクルトシキタヘソテカハシニラワスレテオモヘヤ

璞之年者竟杼敷白之袖賜子少忘而念哉。

シロターノソテラハツカニニシカラニカルコヒシモワレハスルカモ

白細布袖小端見柄如有戀吾爲鴨。

マニヨモカハモシラスギニケリ

戀事意追不得出行者山川不知來。

マニヨモカハモシラスギニケリ

乞

我妹戀無之夢見吾雖念不所寐。

ユヘナニワガシタニモノトケタルシヒトニシラスナタニアフード

故無吾裏紉令解人莫知及正逢。

コルコトナガメカ子ニイチニカハヤナカハシラスキニケリ

戀事意追不得出行者山川不知來。

マニヨモカハモシラスギニケリ

寄物陳思。

トメラソデフルヤモノニツカキノヒサシキヨヨリキモヒキワレハ

處女等呼袖振山水垣久時由念來吾等者。

ナハフルカミノタモテルイノキモタガタメニカハナガクホリスル

千早振神持在命誰爲長欲爲。

イソノカミフルノカミスギカミトナルコヒシモワレハサラニスルカモ

石上振神杖神成戀我更爲鴨。

イカナラムカミニヌサラモタムケバカウガオモフイモシユヌニダニミム

何名潁神幣嚮奉者吾念妹夢谷見。

イカナラムカミニヌサラモタムケバカウガオモフイモシユヌニダニミム

アメツチトイフナノタエテアラバコソナレニワガアフコトモヤ三十メ

天地言名絶有汝吾相事止

ツキミレバクニハキナシヤヘダテウツタニイモハヘダテタルカモ

月見國同山闍愛妹闍有鴨

クルミナハ イシフムヤモナクモガモスカツキニガウマツグクモ

繆路者石躋山無鴨吾待公馬爪盡

1ハ子フミカサナルヤマハアラ子ドモアハ

石根躋重成山雖不有不相日數戀度鴨

淡海海奧白浪雖不知妹所云七日越來
大船香取海溫下何有人物不念有

奧藻隱障浪五百重浪千重敷敷戀度鴨
口トゴトハヒラクワキモ

人事暫吾妹繩手引從海益深念

淡海奧島山奧儲吾念妹事繁

近江海奧滂船重下藏公之事待吾序

隱沼從裏戀者無乏妹名告忌物矣

大土採雖盡世中盡不得物戀在

隱處澤泉在石根通念吾戀者

白檀石邊山常石有命哉戀乍居

淡海海沈白玉不知從戀者吟益

白玉纏持從令吾玉爲知時谷

白玉從手纏不忘念何畢

烏玉間開乍貫緒縛依後相物

香山爾雲位折曳於保保思夕相見子筭乎後

戀牟鴨

雲間從狹徑月乃於保保思久相見子等乎見
ヨシモカモ

促

因鴨

アーフモノヨリニアヒトホニアハズ トモアタシタ ノクラワレハトカメア
天雲依相遠雖不相異手枕吾纏哉
クモダニモニルクニタ、バナグサメニミ ツ、モシムタミニアフニデニ

雲谷灼發意追見乍爲及直相

春楊葛山發雲立座妹念

カスガヤクモヰ カクレテトホケレドヘハキモハズキミラニゾキモフ

春日山雲座隱雖遠家不念公念

ワガユニアハレシイモハタカヤマノミチノアサカリスキニケムカモ

我故所云妹高山之岑朝霧過兼鴨

スバタノクロカミヤマノヤマスナニコサメフリシキースクソオモフ

烏玉黑髮山山草小雨零敷益益所思

ヤシモコガワレヲオモハシソカバミテリイヅルキノカニニエコ子

大野小雨被敷木本時依來我念人

アサレモノナバケナシオモヒツイカテコノヨラアカシナカモ

朝霜消消念乍何此夜明鴨

ワガセコガヤハユクカゼノイヤハヤハコトニキアハズヤアラム

吾背兒我濱行風彌急急事益不相有

トホツーフリサケニツ、シノブラムコノツキノオモニクモタナヒキ

遠妹振仰見偲是月面雲勿棚引

ヤシモコガワレヲオモハシソカバミテリイヅルキノカニニエコ子

我妹吾矣念者真鏡照出月影所見來

ヒサカタノアマテルツキノカレバナニノナソヘテイモラシバム

久方天光月隱去何名副妹偲

ミカツキノサヤカニミエズクモガクレミソゾホシキウタコノコロ

若月清不見雲隱見欲字多拜比日

我背兒爾吾戀居者吾屋户之草佐倍思浦乾
ケリ

來

朝茅原小野印空事何在云公待
アナヂ ハラヲノニシヌフソラゴトライカナリトイヒテキミヲバタム
ミキノベノクサフカユリノキニテフイモガニコトヲワレハシラメヤ

路邊草深百合之後云妹命我知
ミナトアシニシジレルクサノシリクサノヒトミナシリヌワガシタキモヒ

蓴葦交在草知草人皆知吾裏念
ヤマチサノシラツユラモミウラフレコロニフカクワガコヒヤーズ

山蒿苣白露重浦經心深吾戀不止
ヤマホリノイツミンコスゲナシナミニイモカコロヲワレハオモハス

潮核延子管不竊隱公戀乍有不勝鴨
ヤマホリノイツミンコスゲナシナミニイモカコロヲワレハオモハス

山代泉小管凡浪妹心吾不念
ヤマダカミハラツモニウラモミウラフレコロニフカクワガコヒツ、アリガテヌカモ

管

萬

見渡

三室山石穗管惻隱吾片念爲
ミタセバミムロノヤヘンイハホスゲナノビテワレハカタオモヒヲスル

一云三諸山之石小管
ミモロメヤハノイハコスゲ

菅根惻隱君結爲我絪緒解人不有
スガノチノシノビニキミガスビテシワガモノヲ、トクヒトアラメヤ

山管亂戀耳令爲乍不相妹鴨年經乍
ヤマスゲノミタレコロノミセサセツ、アハヌイモカモトニハニツ、

我屋戸薨子太草雖生戀忘草見未生
ワガヤドノキノシタクサオレドモコヒワスレグサミードタオヒズ

打田稗數多雖有擇爲我夜一人宿
ウツタモヒエカズアタアリトイヘドエラレシワレヨルヒトリヌル

足引名負山管押伏公結不相有哉
アシジキノナニオフヤスゲキシフセテキミムスバゾアハズアラメヤ

秋柏潤和川邊細竹目人不顏面公無勝
アキカシハヌルヤカハベノシノメニヒトモアヒミジキミニサラジ

サニカツラノチモアハムトユメニノミウナヒソワタルトニハヘニツ、

核葛後相夢耳受日度年經乍。
ミチノベノイキシノハナノイキシロクニトニテリヌワガコヒツバ

路邊壹師花灼然人皆知我戀嫋。

イチヨクヒトリニケリツキテシタモヘバ

或本歌云灼然人知爾家里繼而之念者
オホノラノアトカタシラズレメユヒテアリトモキスヤワガヘリミ

大野跡狀不知印結有不得吾眷。

ミナソコニキフルタモノウキナビキコロシヨセテコブルコノコロ

水底生玉藻打靡心依戀此日。

エキタヘノコロモテカレターモ十九ナビキカヌラムワヲエチガテ

敷梓之衣手離而玉藻成靡可宿澪和平待難

キミコズハカタミニセムトワレフタリウエニツノキキミヲエチガテ

君不來者形見爲等我二人植松木君乎待出
キミコズハカタミニセムトワレフタリウエニツノキキミヲエチガテ

爾。

牟

袖振可觀恨吾雖有其松枝隱在
ソデフルラミルベキカギリワレハアレドソノツガエニカクシタリケリ

珍海濱邊小松根深吾戀度人子始
アヌウミノハマベノコトツ子フカメテワガコヒワタルヒトノコユニ

或本歌云血沼之海之盐干能小松根母已
ロニコヒヤワタラムヒトノユニ

呂爾戀屋度人兒故爾。

ナラヤマコマツガウレニアレコソハワガキモニアハズヤミナメ

平山子松末有廉叙波我思妹不相止者
ナラヤマコマツガウレニアレコソハワガキモニアハズヤミナメ

礪上立回香瀧心哀何深目念始
タキバナノモトニワレタキシヅエトリナリヌヤキニトヒコラハモ

橘本我立下枝取成哉君問子等
タキバナノモトニワレタキシヅエトリナリヌヤキニトヒコラハモ

アマグモニ ハ子ウチツケテ トブタヅノタツタツシ カモキミニサ
天雲爾翼打附而飛鶴乃多頭多頭思鴨君不

子バ 座者

妹戀不寐朝明男爲鳥從是此度妹使
念餘者舟穗鳥足沾來人見鴨

高山岑行院友衆袖不振來忘念勿
大船真楫繁拔榜間極太戀年在如何

足常母養子眉隱隱在妹見依鴨
肥人額髮結在深木綿染心我忘哉

一云所忘目八方

ワスラレメヤモ

早人名負夜音灼然吾名謂嬪恃

銃刀諸刃利足蹈死公依

我妹戀度銃刀名惜念不得

朝月日向黃楊櫛雖舊何然公見不飽

里遠眷浦經真鏡床重不去夢所見與

真鏡手取以朝朝雖見君飽事無

夕去床重不去黃楊枕射然汝主待固

解衣戀亂乍浮沙生吾戀度鴨

梓弓引不許有者此有戀不相

事靈八十衢夕占問占正謂妹相依

玉梓路往占夕相妹逢我謂

余乞

問答

皇祖乃神御門平懼見等待從時爾相流公鴨
真祖鏡雖見言哉玉限石垣淵乃隱而在嫋

右二首

妹
赤駒之足我枳速者雲居爾毛隱往序袖卷吾

妹
隱口乃豐泊瀨道者常濟乃恐道曾戀由眼
味酒之三毛侶乃山爾立月之見我欲君我馬
之足音曾爲

右三首

雷神小動刺雲雨零耶君將留
雷神小動雖不零吾將留妹留者

右二首

シキタヘノマクラウゴキテヨルモズキモヒトニハモアハム
布細布枕動夜不寐思人後相物
シキタヘノマクラセヒトコトトヘヤソノマクラニハコナムシタリ
敷細布枕人事問哉其枕苔生負爲

右二首

以前一百四十九首稀本朝臣人磨之歌集出

正述心緒

ダラチ子ノリニサハバイタツニイハシモウルモコトヤ
足千根乃母爾障良婆無用伊麻思毛吾毛事
ナルベキアキナリ

應成

四所念

ワキモコガワレヲオフルトシロタヘノソデヒツテデニ十キ
吾妹子之吾呼送跡白細布乃袂漬左右二哭
シカモホユ

奥山之真木乃板户乎押開思惠也出來根後

者何將爲

カリコモノヒトヘシキテサヌレドモキミトシヌレバヒヤクモナシ
前薦能一重叫敷而紗眠友君共宿者冷雲梨
カキツバタニホヘルキミラ一サナミニキモヒイテツナキツルカモ
垣幡丹頰經君叫率爾思出乍嘆鶴鴨
ウラミヒトオモフカセナハアリシニハヨソニノミミシコロハオモヘド
恨登思狹名盤在之者外耳見之心者雖念
サニツラブイロニハイデススイナタモコロノウチニワガヌモハナクニオモホレトモ
散頰相色者不出小文心中吾念名君

吾背子爾直相者社名者立米事之通爾何其故

勦片念爲歟比者之吾情利乃生戸裳名寸
將待爾到者妹之懼跡咲儀乎往而早見
誰此乃吾屋戸來喚足千根母爾所噴物思吾

呼

左不宿夜者千夜毛有十方我背子之思可悔
心者不持

平

家人者路毛四羨三荷雖來吾待妹之使不來
鴨

璞之寸户我竹垣編目從毛妹志所見者吾戀

目八方

吾背子我其名不謂跡玉切命者棄志賜名
凡者誰將見鴨黑玉乃我玄髮乎靡而將居
面忘何有人之爲物鳥言者爲金津繼手志念
者

鳥

アヒオモハヌヒトノ ユエニカ アラタマノ トニノヲ ナガシワガコニヲラム
 不相思人之故可璞之年緒長言戀將居
ホヨソノ ウザハ オモハズワガニニヒトニ コチタクイハレシモノヲ
 凡乃行者不念言故人爾事痛所云物乎
キヲニイモヲ オモヘバ トニツキノ ユクラムワキモ オモホヘス
 氣緒爾妹乎思念者年月之往覽別毛不所念
カモ

鳬

アラチ子ノハニシラセズ ワガモタルコロハ ヨシエ キミカ
 足千根乃母爾不所知吾持留心者吉惠君之

隨意

ヒトリヌトコモクキメヤモアヤヒロヲニナルテニキニヲシマタ
 獨寢等菱朽目八方綾席緒爾成及君乎之將

待

アヒミテハナトセヤイスルイナカニカモワレヤシカオモラキニテチガチ
 相見者千歲八去流否乎鴨我哉然念待公難
カモ

爾

アリワケノカミラミカニカニワカクサカニニタクラムイモヲシゾ
 振別之髮乎短彌青草髮爾多夕盪妹乎師曾

於母布

アキトリユキミノサトニイモヲオキテコロソラナリツキハフメドモ
 徘徊往箕之里爾妹乎置而心空在土者蹠鞞
ワタクサノニヰタニクラシテキソメテヨリヤヘタテムニク
 若草乃新手枕乎卷始而夜哉將間二八十一

不在國

ワガコヒノコトモカタヒナグサメキミガツカヒリテチヤカモナ
 吾戀之事毛語名草目六君之使乎待八金手

六

寢者相縁毛無夢谷間無見君戀爾可死
 誰彼登問者將答爲便乎無君之使乎還鶴鴨
 不念丹到者妹之歡三跡咲半眉曳所思鴨
 如是許將戀物衣常不念者妹之手本乎不纏

夜裳有寸

如是谷裳吾者戀南玉梓之君之使乎待也金

手武

梓

妹戀吾哭涕敷妙木枕通而袖副所沾

或本歌云枕通而卷者寒母

立念居毛曾念紅之赤裳下引去之儀乎
 念之餘者爲便無三出曾行之其門乎見爾
 情者千遍敷及雖念使乎將遣爲便之不知久
 夢耳見尚幾許戀吾者寢見者益而如何有
 對面者面隱流物柄爾繼而見卷能欲公毳
 且戶遣乎速莫開味澤相目之乏流君令夜來

連一

座有テセル

玉垂之小簣之垂簾乎徃褐寐者不眠友君者通速爲

垂乳根乃母白者公毛余毛相鳥羽梨丹年可

經

愛等恩篇來師莫忘登結之紉乃解樂念者
昨日見而今日杜間吾妹兒之幾許繼手見卷

欲毛

人毛無古鄉爾有人乎愍久也君之戀爾令死
人事之繁間守而相十方八反吾上爾事之將

繁

里人之言緣妻乎荒垣之外也吾將見惡有名國

他眼守君之隨爾余共爾夙興乍裳裾所沾
夜子玉之妹之黑髮今夜毛加吾無床爾靡而

宿良武

草細クサホシ

花細葦垣越爾直一目相視之兒故千遍嘆津
色出而戀者人見而應知情中之隱妻波母
相見而者戀名草六跡人者雖云見後爾曾毛
アヒミテハコニナグサムトヒトハイヘドミテノキニソモ

戀益家類

凡吾之念者如是許難御門乎退出米也母
將念其人有哉烏玉之每夜君之夢西所見
カクバカリカタキニカドヲタナイテメヤモ

或本歌云夜晝不云吾戀渡

如是耳戀者可死足乳根之母毛告都不止通
カクシノミコロハシヌベシタラチチノハニモツゲツヤースカヨハ

爲

大夫波友之驂爾名草溢心毛將有我衣苦寸
僞毛似付曾爲何時從鹿不見人戀爾人之死
アラムワレゾクルシキ

爲

情左倍奉有君爾何物乎鴨不云言此跡吾將
竊食

面忘太爾毛得爲也登手握而雖打不寒戀之
奴

希將見君乎見常衣左手之執乃方之眉根搔

禮

人間守蘆垣越爾吾妹子乎相見之柄二事曾
サタオホキ

左太多寸

令谷毛目莫令之不相見而將戀年月久家莫
カレニメソ

國

朝宿髮吾者不梳愛君之手枕觸義之鬼尾
ハヤニキテイツシカキニアヒミズテコニムトシツキニサニケナ

早去而何時君乎相見等念之情令曾水葱少

今真

國

熱

面形之忘戸在者小豆鳴勇士物屋戀乍將居
コトニイヘバミニタヤスジシモノトモコロイハチニワガオモ

言云者三三二田八醜四小九毛心中二我念

羽奈九二

相見而幾久毛不有爾如年月所思可聞
アヒミテハイクニサニサモアラナクニトシツキノゴトオモホユルカモ

大夫登念有吾乎如是許令戀波小可者在來
アスラタトキモヘルワレヲカクバカリコニセニルハウヘニサリケル

今

念

如是爲乍吾待印有鴨世人皆乃常不在國

人事茂君玉梓之使不遣忘跡思名

大原古鄉妹置吾稻金津夢所見乞

オホハラノフリニシサトニイモヲオキテワレイ子カチツ

ナゾリゾイモイ子ガテニスル

ユフガレハキニキースカトニナゾリゾイモイ子ガテニスル

コソ

夕去者公來座跡待夜之名凝衣令宿不勝爲
不相思公者在良思黑玉夢不見受早宿跡
石根踏夜道不行念跡妹依者忍金津毛
人事茂間守跡不相在終八子等面忘南
戀死後何爲吾命生日社見幕欲爲禮

敷細枕動而宿不所寢物念此夕急明鴨
不往吾來跡可夜門不閉惄怜吾妹子待筒在
夢谷何鴨不所見雖所見吾鴨迷戀茂爾
名草漏心莫二如是耳戀也度月日殊

或本歌云與津浪敷而耳八方戀度奈牟
何爲而忘物吾妹子丹戀益跡所忘莫覺二
遠有跡公衣戀流玉梓乃里人皆爾吾戀八方
驗無戀毛爲鹿暮去者入之手枕而將寐兒故

モ・ヨ・シモキ・ヨ・シモイキテアラメ・ヤ・モ・ワガキモフイモ・オキテナゲカハ
百世下千代下生有目八方吾念妹乎置嘆
ウツ、ニモ ユミニモ ワレハ オモハザリキフリタルキミニ コ・ニ・アハムト
現毛夢毛吾者不思寸振有公爾此間將會十
ハ
オモハズニ

羽

クロカミヲシラカミマテトスアキミコロヒトツタ
黒髮白髮左右跡結大王心一乎令解目八方
ラ・ロヲ・ニ・キミニ
心乎之君爾奉跡念有者縱比來者戀乍乎將

有

キモヒテ子ニハナリトモイチニロクヒトノニルベクナギスナユメ
念出而哭者雖泣灼然人之可知嘆爲勿謹
タマボコノミチユキフリニオモハズニイモナアヒミテコフルコロカモ
玉梓之道去夫利爾不思妹乎相見而戀比鴨

入目多常如是耳志俟者何時吾不戀將有
シキタヘノコロモテカレテワツトアリケムコラハ
敷細之衣手可禮天吾乎待登在鑑子等者面
カダニミユ

影爾見

イモガソテワカレニヒヨリシロタヘノコロモカタニキコヒツ、ゾヌル
妹之袖別之日從白細乃衣片敷戀管曾寐留
シロタヘノソデハキニエキモコガヘノアタリヲヤニズフリ
白細之袖者間結奴我妹子我家當乎不止振
シニ

四二

ヌバタニノワガクロカミタニキスラシミテカヘリコニワタルカモ
夜干玉之吾黑髮乎引奴良思亂而反戀度鴨
イ・サランキニカタラキ子メヤワガヒモノナノトケツ、モト
今更君之手枕卷宿米也吾紉緒乃解都追本

今

名

白細布乃袖觸而夜吾背子爾吾戀落波止時
裳無

夕ト爾毛占爾毛告有令夜谷不來君乎何時
將待

眉根搔下言借見思有爾去家人乎相見鶴鴨
或本歌曰眉根搔誰乎香將見跡思乍氣長
戀之妹爾相鴨

一書歌曰眉根搔下伊布可之美念有之妹
之容儀乎令日見都流香裳

敷榜乃枕卷而妹與吾寐夜者無而年曾經來
奥山之真木之板户乎音速見妹之當乃霜上
爾宿奴

足日木能山櫻户乎開置而吾待君乎誰留流
月夜好三妹二相跡直道柄吾者雖來夜其深
去來

浪

寄物陳思

朝影爾吾身者成辛衣襯之不相而久成者
解衣之思亂而雖戀何如汝之故跡問人毛無
搢衣著有跡夢見津寐者孰人之言可將繁
志賀乃白水郎之益燒衣雖穢戀云物者忘金

津毛

吳藍之八益乃衣朝且穢者雖爲益希將見裳
紅之深染衣色深染西鹿齒蚊遺不得鶴

可續

不相爾夕ト乎問常幣爾置爾吾衣手者又曾
古衣打棄入者秋風之立來時爾物念物其
波襦縷令爲妹之浦若見咲見愠見著四紉解
去家之倭父旗帶乎結垂孰云人毛君者不益
一書歌古之狹織之帶乎結垂誰之能人毛
君爾波不益
不相友吾波不怨此枕吾等念而枕手左宿座

結紉解日遠敷細吾木枕蘿生來

夜于玉之黑髮色天長夜叫手枕之上爾妹待

覽蚊

真素鏡直二四妹乎不相見者我戀不止年者

雖經

真十鏡手取持乎朝且見_母時禁屋戀之將繁
里遠戀和備爾家里真十鏡面影不去夢所見

社

右一首上見柿本朝臣人磨之歌中也但以
句句相換故載於茲

劍刀身爾佩副流大夫也戀云物乎忍金手武
劍刀諸刃之於荷去觸而所殺鴨將死戀管不
有者
晒鼻乎曾曬鶴劍刀身副妹之思來下
梓弓末之腹野爾鷹田爲君之弓食之將絕跡
念甕屋

葛木之其津彦真乃荒木爾毛憑也君之吾之
名告兼

梓弓引見絕見不來者不來來者其其乎奈何
不來者來者其乎

時守之打鳴鼓數見者痕爾波成不相毛恠
燈之陰爾蚊蛾欲布虛蟬之妹蛾咲狀思面影

爾所見

玉戈之道行疲伊奈武思侶數而毛君乎將見

因母鴨

小墾田之板田乃橋之壞者從桁將去莫戀吾

妹

可聞

宮材引泉之追馬喚犬二立民乃息時無戀渡
管不有者

東細布從空延越遠見社目言踈良米絕跡間

也

云云物者不念斐太人乃打墨繩之直一道二
足日本之山田守翁置蚊火之下粉枯耳余戀

居久

十寸板持蓋流板目乃不令相者如何爲跡可
吾宿始兼

難波人葦火燎屋之醉四手雖有已妻許增常

目頰次吉

妹之髮上小竹葉野之放駒蕩去家良思不合
思者

馬音之跡杼登毛爲者松陰爾出曾見鶴若君
香跡

君戀寢不宿朝明誰乘流馬足音吾聞爲
紅之欄引道乎中置而妾哉將通公哉將來座

一云須蘇衝河乎又曰待香將待

天飛也輕乃社之齋槐幾世及將有隱孺其毛

神名火爾。紉呂寸立而雖忌人心者間守不敢

物。

天雲之八重雲隱鳴神之音爾耳。八方聞度。南
爭者神毛惡爲縱咲八師世副流君之惡有莫

君爾。

夜並而君乎來座跡千石破神社乎不祈日者

無。

靈治波布神毛吾者打棄乞四惠也壽之慘無

吾妹兒又毛相等千羽八振神社乎不禱日者
無。

千葉破神之伊垣毛可越令者吾名之惜無古
暮月夜曉闇夜乃朝影爾吾身者成奴汝乎念

金丹。

月之有者明覽別裳不知而寐吾來乎人見兼
鴨。

妹目之見卷欲家口夕闇之木葉隱有月待如

真袖持床打拂君待跡居之間爾月傾
一上爾隱經月之雖惜妹之田本乎加流類比

來

吾背子之振放見乍將嘆清月夜爾雲莫田名

引

真素鏡清月夜之褐徒去者念者不止戀社益
今夜之在開月夜在乍文公平置者待人無
此山之嶺爾近跡吾見鶴月之空有戀毛爲鴨

叫

焉玉乃夜渡月之湯移去者更哉妹爾吾戀將
居

朽網山夕居雲薄往者余者將戀名公之目乎

欲

君之服三笠之山爾居雲乃立者繼流戀爲鴨
久堅之天飛雲爾在而然君相見落日莫死
佐保乃內從下風之吹禮波還者胡粉歎夜衣

大寸

諸本如此

駁

級子八師不吹風故玉遞開而左宿之吾其悔

寸

窓超爾月臨照而足檜乃下風吹夜者公乎之

其念

河千鳥住澤上爾立霧之市白兼名相言始而

者

吾背子之使乎待跡笠毛不著出乍其見之雨

落父爾

辛衣君爾內著欲見戀其晚歸之雨零日乎
彼方之赤土少屋爾霖零床共所沾於身副

我妹

笠無登人爾者言乎雨乍見留之君我容儀志
所念

妹門去過不勝都久方乃雨毛零奴可其乎因
將爲

夜占問吾袖爾置白露乎於公令視跡取者消

管

櫻麻乃苧原之下草露有者令明而射去母者

雖知

待不得而内者不入白細布之吾袖爾露者置

奴鞆

朝露之消安吾身雖老又若反君乎思將待
白細布乃吾袖爾露者置妹者不相猶預四手
云云物者不念朝露之吾身一者君之隨意

有申尾

夕凝霜置來朝戶出爾甚踐而入爾所知名
如是許戀乍不有者朝爾日爾妹之將覆地爾

戀鬼香

足日木之山鳥尾乃一峯越一日見之兒爾應

管香將有

吾妹子爾相緣乎無駿河有不盡乃高嶺之燒
管香將有

荒熊之住云山之師齒迫山責而雖問汝名者

不告

妹之名毛吾名毛立者惜社布仕能高嶺之燒
ツ、ワヌ

乍渡

或歌曰君名毛妾名毛立者惜已曾不盡乃
タカ子ノモエツ、モジル

高山之燒乍毛居

往而見而來戀敷朝香方山越置代宿不勝鴨
アタヒトノヤナウナワタスセシハヤミコロハオモヘドキニアハ又カモ
安太人乃八名打度瀨速意者雖念直不相鴨
カゲラノイハカキフチノカクレニハフシテシストモナガナハイハジ

玉蜻石垣淵之隱庭伏以死汝名羽不謂

渡

甲川

渡

明日香川明日文將渡石走遠心者不思鴨
アスカバミツユキサリイヤヒケニコヒノニサレバアリガテヌカモ
飛鳥川水往增彌日異戀乃增者在勝申目
コモカルキホノカハラノミコモリニコヒコ

真薦刈大野川原之水隱戀來之妹之紉解吾

惡永木之山下動逝水之時友無雲戀度鴨
ヨシエヤシアハヌキニユエイタツラニコノカハノセニタモスラレツ
愛八師不相君故徒爾此川瀨爾玉裳沾津
ハツセガハヤミハヤセシムスアゲテアカズヤイモトトヒシ

泊湍川速見早湍乎結上而不飽八妹登問師

公羽裳

讃

青山之石垣沼問乃水隱爾戀哉度相緣乎無
四長鳥居名山響爾行水乃名耳所緣之内妻
波母

衣思 發

或本歌句云相不思人乎念久

一云名耳之所緣而戀管哉將在

吾妹子吾戀樂者水有者之賀良三超而應逝

須余名告奈

奥山之木葉隱而行水乃音聞從常不所忘

言急者中波余騰益水無河絕跡云事乎有超

名湯目

明日香河逝湍乎早見將速登待良武妹乎此

日晚津

物部乃八十武川之急瀨立不得戀毛吾爲鴨

一云立而毛君者忘金津藻

今

神名火打迴前乃石淵隱而耳八吾戀居
タカナヨリイデクルミツノハニフレワレテキモフイモニアハヌヨハ

自高山出來水石觸破衣念妹不相夕者
アサコキニ井テコスナミバセテウニモアハヌモノユエタキ

朝東風爾井提越浪之世蝶似裳不相鬼故瀧
モトロニ

毛響動二

死
タカヤマノイハモトタキキユクミツノオトニハタデジコヒテニヌ
高山之石本瀧千逝水之音爾者不立戀而雖
トモ

隱沼乃下爾戀者飽不足人爾語都可忌物乎
ミツトリノカモノスムイケノシタニナニユカシキキミラケフミツル
永鳥乃鴨之住池之下桶無樽悒君今日見鶴
カクレスノシタニコフレバアキタラズヒトニカタリツイムベキモノヲ

鴨

カモ

玉藻刈井提乃四賀良美薄可毛戀乃余杼女
ルワガコロカモ

留吾情可聞

カモ

吾妹子之笠乃借手乃和射見野爾吾者入跡
イモニツゲコソ

妹爾告乞

カモ

數多不有名乎霜惜三理木之下從其戀去方
レラズテ

不知而

カモ

冷風之千江之浦回乃木積成心者依後者難
エノウラワノコツミナスコロハヨリヌノチハシラ

不知

白細砂三津之黃玉色出而不云耳衣我戀樂

者風不吹浦爾浪立無名乎吾者負香逢者無二

一云女跡念而

醜蛾島之夏身乃浦爾依浪間文置吾不念君
淡海之海與津島山與間經而我念妹之言繁
霰零遠津大浦爾緣浪縱毛依十方憎不有君

水海之名高之浦爾依浪音高鳥不相子故爾
牛窓之浪乃鹽左猪島響所依之君爾不相鴨
將有

興波邊浪之來緣左太能浦之此左太過而後
將戀可聞

白浪之來緣島乃荒磯爾毛有申物尾戀乍不
有者

鹽滿者水沫爾浮細砂裳吾者生鹿戀者不死

而

住吉之城師乃浦箕爾布浪之數妹乎見因欲

岸

得

風緒痛甚振浪能間無吾念君者相念濫香
大伴之三津乃白浪間無我戀良苦乎人之不

知久

大船乃絕多經海爾重石下何如爲鴨吾戀將

止

波

水沙兒居與鹿磯爾緣浪往方毛不知吾戀久

隨

大船之舳毛艤毛依浪依友吾者君之任意

大海二立良武浪者間將有公ニ戀等九止時

毛梨

牡鹿海部乃火氣燒立而燎蓋乃辛戀毛吾爲

鴨

右一首或云石川君子朝臣作之

馬イ

中中二君ニ不戀者牧浦乃白水郎有申尾玉
藻刈管

十カくニキミニコヒズハアミノウラノア

カリツ、

或本歌曰中中爾君爾不戀波留鳥浦之海
部爾有益男珠藻刈刈
鈴寸取海部之燭火外谷不見人故戀比日
湊入之葦別小舟障多見吾念公爾不相頃者
鴨

頃

庭淨奥方榜出海舟乃執棍間無戀爲鴨

不相將有八方

味鎌之盐津乎射而冰手船之名者謂手師乎
大舟爾葦荷刈積四美見似裳妹心爾乘來鴨

驛路爾引舟渡直乘爾妹情爾乘來鴨

吾妹子不相久馬下乃阿倍橘乃蘿生左右

味乃往渚沙乃入江之荒磯松我乎待兒等波

但一耳

吾妹兒乎聞都賀野邊能靡合歡木吾者隱不

紙

三

笑

得間無念者

ナミテヨリニユルコシマノハニヒサキヒサシクナスキミニアハズ
波間從所見小島之濱久木久成奴君爾不相

四手

アサカニハヌルヤカハベノシノ、メノオモニテユレバユメニミ
朝柏閣八河邊之小竹之眼笑思而宿者夢所

見來

アサヂハラカリシメサシトソラゴトモヨセテシキニガコトヲシ
淺茅原刈標刺而空事文所縁之君之辭鴛鴦

將待

ソキクサノカリナルイノチアルヒトヲイカニシリテカノキモアハムテフ
月草之借有命在人乎何知而鹿後毛將相云

王之御笠爾縫有在間管有管雖看事無吾妹
スカノ子ノ子モコロイモニコヒセシウラオモフコロオモホヘヌカモ
菅根之慰妹爾戀西益ト思而心不所念鳬
ワガヤトノホタデフルカラツミハヤシミニナルテニキニテ
吾屋戶之穗蓼古幹採生之實成左右二君乎

志將待

アシビキノヤサハエクナツツニニカスヒタニモアハムハ
足檜之山澤回具乎採將去日谷毛相將母者

責十方

オクヤノイハモトスゲノ子フカクモオホユルカモワガキモヒツヘ
奥山之石本管乃根深毛所思鴨吾念妻者
アシガキノナカノニコクサニコヨカニワレトアミシテヒト
蘆垣之中之似兒草爾故余漢我共咲爲而入

爾所知名

紅之淺葉乃野良爾薺草乃東之間毛吾忘諸

志

菜

爲妹壽遺在薺薦之念亂而應死物乎

吾妹子爾戀乍不有者薺薦之思亂而可死鬼

乎

三島江之入江之薦乎薺爾社吾乎婆公者念

有來

足引乃山橘之色出而吾戀南雄八目難爲名
葦多頭乃颯入江乃白管乃知爲等乞痛鴨
吾背子爾吾戀良久者夏草之薺除十方生及

如

道邊乃五柴原能何時毛何時毛人之將縱言
乎思將待吾妹子之袖乎憑而真野浦之小管乃笠乎不
著而來二來有

真野池之小菅乎笠爾不縫爲而人之遠名乎

可立物可

刺竹齒隱有吾昔子之吾許不來者吾將戀八

方

神南備能淺小竹原乃美妾恩公之聲之知家

口

山高谷邊蔓在玉葛絕時無見因毛欲得
道邊草冬野丹覆于吾立待跡妹告乞

疊薦闇編數通者道之柴草不生有申尾

水底爾生玉藻之生不出縱比者如是而將通
海原之奥津繩乘打靡心裳四怒爾所念鴨
紫之名高乃浦之靡藻之情者妹爾因西鬼乎
海底與乎深目手生藻之最令社戀者爲便無

寸

左寐蟹齒孰共毛宿常奧藻之名延之君之言

待吾乎

吾妹子子之奈何跡裳吾不思者含花之穗應咲
隱庭戀而死廟三葬原之鷄冠草花乃色二出

目八方依此義者可和月草
開花者雖過時有我戀流心中者止時毛梨
山振之爾保敝流妹之翼酢色乃赤裳之爲形

夢所見管

天地之依相極玉緒之不絕常念妹之當見津
生緒爾念者嘗玉緒乃絕天亂名知者知友

玉緒之絕而有戀之亂者死卷耳其又毛不相
爲而

玉緒之父栗緣乍末終去者不別同緒將有
片絲用貫有玉之緒乎弱亂哉爲南人之可知
玉緒之鴟憇哉年月乃行易及妹爾不逢將有
玉緒之間毛不置欲見吾思妹者家遠在而
隱津之澤立見爾有石根從毛遠而念君爾相

卷者

木國之飽等濱之忘具我者不忘年者雖歷
紀伊國ミナソコノタマニ
 水沫玉爾接有磯貝之獨戀耳年者經營
スミノエノハニヨルテフタツセカヒニミキトシハ
 住吉之濱爾緣云打背貝實無言以余將戀八

方

伊勢乃白水郎之朝魚夕菜爾潛云鱗貝之獨
カツクテフアハビノカヒノカタコヒノミキトシハ
 念荷指天

人事乎繁跡君乎鶴鳴人之古家爾相語而遣
カツクテフアハビノカヒノカタコヒメヤ
 都

遺

詰

旭時等鷄鳴成縱惠也思獨宿夜者開者雖明
トリハナクナリヨシエヤニヒトリスルヨハアケバアクトモ
 大海之荒磯之諸鳥朝名且名見卷欲乎不所
アライソノストリアサナアサナミマクホニキノミエ
 見公可問

念友念毛金津足檜之山鳥尾之永此夜乎
オモヘドモモヒモカ子ツアシヒキノヤドリノヲナガキコノヨク
 或本歌曰足日木乃山鳥之尾乃四垂尾乃
アシビキノヤドリノヲノエダリノノ
 長永夜乎一鴨將宿
アシビキノヤドリカモ子ム
 里中爾鳴奈流鷄之喚立而甚者不鳴隱妻羽
サトナカニナクナルカケノヨジタテイタクハナカズコモリツハ
 毛

一云里動鳴成鷄

嵩山爾高部左渡高高爾余待公乎待將出可

聞

伊勢能海從鳴來鶴乃音杼侶毛君之所聞者

吾將戀八方

クモナシ

吾妹兒爾戀爾可有牟與爾住鴨之浮宿之安

雲無

可旭千鳥數鳴白細乃君之手枕未厭君

イツシカモ

問答

眉根搔鼻火紉解待八方何時毛將見跡戀來

コヒコニ

吾乎

右上見拂本朝臣人磨之歌中但以問答故

累載於茲也

ケフナレバ

今日有者鼻之鼻之火眉可由見思之言者君

ミシアリケリ

西在來

右二首

音耳乎聞而哉戀犬馬鏡目直相而戀卷裳太

口

此言乎聞跡乎真十鏡照月夜裳闇耳見

右二首

吾妹兒爾戀而爲便無三白細布之袖反之者
夢所見也

右二首

吾戀者名草目金津真氣長夢不所見而年之
經去禮者

真氣求夢毛不所見雖絕吾之片戀者止時毛
不有

右二首

浦觸而物魚念天雲之絕多不心吾念魚國
浦觸而物者不念水無瀨川有而毛水者逝云

莫

物乎

莫

右二首

垣津旗開沼之營乎。笠爾縫將著日乎。待爾年
曾經去來。

臨照難波菅笠置古之後者誰將著笠有魚國

右二首

如是谷裳妹乎待南左夜深而出來月之傾二

手荷

木間從移歷月之影惜徘徊爾左夜深去家里

右二首

持領巾乃白濱浪乃不肯緣荒振妹爾戀乍曾

居

コフルコロカモ

一云戀流已呂可母

持領巾乃白濱浪乃不肯緣荒振妹爾戀乍曾
時毛無。

右二首

念人將來跡知者八重六奢覆庭爾珠布益乎

不肯緣
ヨリモアズ

玉敷有家毛何將爲八重六舍覆小屋毛妹與
居者

右二首

如是爲乍有名草目手玉繕之絕而別者爲便
可無

紅花西有者衣袖爾染著持而可行所念

右二首

譬喻

紅之深深乃衣乎下著者人者見久爾仁寶比
將出鴨

衣霜多在南取易而著者也君之面忘而有

右二首寄衣喻思

梓弓弓束卷易中見判更雖引君之隨意

冰沙兒居渚座船之夕益乎將待從者吾社益

右一首寄船喻思

山河爾筌乎伏而不肯盛年之八歲乎吾竊舞
師

僻

右一首寄魚喻思

葦鴨之多集池水雖溢儲溝方爾吾將越八方

寄鳥喻思

此四字并

日本之室原乃毛桃本繁言大王物乎不成不

止

右一首寄薰喻思

止

莫名其妙

真葛延小野之淺茅乎自心毛人引目八面吾
莫名國

コロヨリモ

三島菅未苗在時待者不著也將成三島菅笠
三吉野之水具麻我管乎不編爾刈耳苅而將
亂跡也

右四首寄草喻思

河上爾洗若菜之流來而妹之當乃瀨社因目
如是爲哉猶八成牛鳴大荒木之浮田之杜之

標爾不有爾

右一首寄標喻思

幾多毛不零雨故吾背子之三名乃幾許瀧毛

動響二

右一首寄瀧喻思

萬葉集卷第十一

